

RI会長
バリー・ラシン

インスピレーションになるう

ま
る
が
め

週報

2018.8.9
Vol.56
No6
(2717)
 会員数 60名 出席者47名・欠席者12名・免除会員2名
 欠 席 者 麻田・和泉享・竹内一・加内・眞鍋・松山・森・増田
 中野昌・夏見・飯間・尾崎-会員

前々回出席率 77.59%(7/26)

MARUGAME ROTARY CLUB WEEKLY

 会 長 川原 一夫
 幹 事 福田 洋子
 会報委員長 岡田 将一郎

お知らせ

- ∴ 8月のプログラム
 - 2 (No.1)-クラブフォーラム
 - 9 (No.2)-会員卓話
 - 16 (No.3)-休会
 - 23 (No.4)-会員卓話
 - 30 (No.5)-研修会報告
- ∴ 他RC例会変更
 - 丸亀東 8/7 暑気払い
 - 8/14 休会
 - 善通寺 8/1 移動例会
 - 8/15 休会
 - 坂出東 8/15 休会
 - 坂出 8/14 休会
 - 8/21→8/18 夏季家族会
- ∴ ニコニコBOX;
 - よいことがありました
 - 秋山憲夫君 谷本君
 - アイスクリームありがとうございました
 - 石合君
 - ビールとドイツ音楽と米山も
 - 宜しく願います
 - 塩田君
- ∴ ニコニコ会計累積/¥68,623
- ∴ がんばるBOX;
 - 卓話ありがとうございました
 - 半年が経ちました
 - 今後とも宜しく願います
 - 大西信亮君
 - よいことがありました
 - 橋君
- ∴ がんばる会計累積/¥73,000

例会場・事務局

丸亀市塩飽町50-3 丸亀プラザホテル内

■会長報告

＜粋な飲む男の神様＞

日本酒の杜氏にあこがれて、入学するところが、東京農業大学の醸造科学課です。農大の正門の校標に使われている「東京農業大学」の文字は、棟方志功によるものです。また農大といえば、応援団が大根をもって踊る大根踊りが有名な大学です。日本には、現在約2000社の蔵元があるそうで、その8割が農大醸造科学課、生物応用科学課、醸造学科の卒業生です。私たちが飲んでいる日本酒の8割は、農大OBが働いている蔵元が作っているということです。杜氏を目指す若者の憧れのひとが、今回紹介するのが、酒造りの神様、野口尚彦さんです。84歳にして杜氏として復活しました。野口さんは、祖父の代から三代続く杜氏一家に育ち、酒造りを続けて60年以上。「吟醸酒」、「山廃仕込み」の技術を復活させたでんせつの人。全国新酒鑑評会で連続12回含む、通算27回の金賞を受賞など現代の名工です。その野口さんが石川県の「野口尚彦研究所」として復活。その目的は、野口杜氏の酒造りにおける「技術」「精神」「生き様」を受け継ぐ場をつくるということです。ロータリーの例会にも通じるところがあります。蔵人の採用条件は、①杜氏になりたいという夢を持っていること②その熱意③健康であること だそうです。最後に野口氏にとって「いい酒」とは何か？「ひと口呑んで『ああ、おいしいなあ』っていう、ため息が漏れるような酒造りたい」いくつになっても、夢を持つことは大切だし、また厳しい環境があったとしても夢を持っているひとはへこたれないことを学んだしいです。飲兵衛としては、日本酒をひと口含んだその時、肉体的にきつい蔵人のことを想いながら、いい酒だなあと幸せを実感したいなあと思いました。

■幹事報告

- 1、ガバナー事務所より2021～2022年度ガバナーの決定宣言の報告が届いています。ガバナー中村ロータリークラブ東 邦彦氏
- 2、8月25日26日研修家族旅行 米山記念館訪問と富士山に触れる旅に13名で実施します
- 3、8月16日の例会は休会となります
- 4、新入会員候補の中野大岳さんに異議申し立てがある場合は一週間以内にお申し出ください。

■例会事業;会員卓話;大西信亮新入会員

自己紹介、生まれは丸亀市西本町、1985年生まれです。小さな頃から丸亀城を見て育ちました。丸亀城への思いは強く、姫路城と比べても本来の城であると思っています。

大西歯科を父より引継ぎました。私が引き継いだ時に、歯科医院のシンボルマークを作成しました。このシンボルマークは20件の応募サイトよりライナーズと言うサイトを選定しました。費用は思ったより格安で、2万円でした。

マークについては丸亀のうちわと葉を組み合わせたシンボルマークとしました。



(裏へ続く)

2018.8.9

Vol.56

No6

(2717)

話は自身の事柄にもどります。私の名前は信亮ですが、この信の文字については祖父の代より受け継いでおります。この名前については私の子供にも引き継いで貰えればと思っています。趣味は大学時代にはテニス等にも没頭し、社交的な性格です。大学は徳島大学で学び、その後大阪の歯科医院で勤め、その後丸亀に帰ってきました、大阪で勤めた医院は70名のスタッフが在籍する大きな医院で、元旦以外は休診日のない歯科医院でした。忙しい医院でしたが、現在よりはまだ時間にゆとりがありました。この歯科医院では、なつかしい患者さんがいました。大阪ならではの愉快的な患者さん。診療費を安くして欲しいと懇願される方や90歳を超えて入れ歯を申し込まれた明るいおばあちゃん等。

こちらに帰ってからは父と2名で診療をしていましたが、私が新しい治療器やカルテの電子化等を積極的に進めました。そのためとは言いませんが、現在、父は自分の時間を大事にする生活となり、私が中心となって診療を行っています。3代目として地元のお世話になった塩屋の方々にははがきでアピールを行いました。

歯科医の仕事はある雑誌で将来AIに取って代わられる代表的な仕事に挙げられていました。現実、大阪で勤めていた時代にコンピュータを使っての歯の製作が1日で完成する事を経験してきました。しかしながら、大阪時代に100歳のおばあちゃんの入歯の相談を受け、製作した時に、歯科医に対する社会的欲求と人の生理的欲求を満たすのは歯科医院にあると強く感じました。

今後はロー列のテーマでもある「自己超越」すなわち「超我の奉仕」を心に留め、社会的に必要とされる歯科医院を運営して参ります。